

「今日も…するのですか…?」

「当たり前です」

「あなたは名家のご令嬢として常に品格のある身だしなみを心掛ける義務があります」

「我儘を言わないで下さい
仕事になりません」

「でも 恥ずかしいです…」

「うう…」



「お嬢様…半剥け状態でも
品のない匂いが漂ってきます」

「お風呂でちゃんと洗っているのですか？」

「えっ？ はい…」

むぎっ

「ん…♡はあはあ」

「では一晩でこんなに溜めたのですね
中身の方が心配になってしまいます」

「これは…ひどい量ですね
スンスン…おえ…」

「いやあ…嗅がないで下さい」

「私も嗅ぎたくななんて
ありません」

ズルルル…

「チンコが勃起したせいで
私の鼻にチンカスが
ついたんですよ?」

「え…ごめんなさい…!」

「本当に反省しているのですか？
全然勃起収まりません」

「だって…らってえ…♡」

「どっさり溜め込んだ
チンカス指摘されて
興奮したのですね」

あっ♡

あっ♡

シュッ
シュッ

「お嬢様はマゾでいられましたか
お母様が見たらどんなに悲しむか…」

「ほわあ…♡」
(シコシコきもちいよう…)

「はぎいいいいいいっ！
金玉だめれすっ！」

「これですか？
可愛い顔して無駄にデカイ
この金玉がいけないのですね」
「はあ…仕方ありません
勃起治めるために
早く射精してください」

「わかりまひたっ♡
わかりまひたから
もっと優しく…」

「必要ありません」

あっ♡

あっ♡

ひゅ、

ぴゅる

シュッ
シュッ

「私はお嬢様の恋人でも
何でもありませんので」
「マゾ用の二番効率の良い
搾精しか行いません」

「そんな…あっ♡あっ♡」

「あっへ!?!♡」

「金玉握り潰されながら出せ」

井ノ下

「チンカスマゾイケ」

「ああああっ♡
金玉だめに
なりゅううっ
ううう!!」



「はい」

「ぴゅー」

「ぴゅー」

びゅる、

ぷん
ぷん

「ザーメンどぴゅー」
「ぴゅっぴゅっぴゅー」

びゅるるっ！

「はい精液出しましたね
チンカスも全部取れました」

「用が済んだので失礼します」

「ま…まっへ…
ぼっき…収まらなくへ…」

ビタン
ビタン

「知りません
自分でフェラでも
すればいいじゃないですか」

「そのぶつといチンコなら
一人で出来ますよね」

それではごきげんよう

チンカスお嬢様

